

～本当に怖い「大人の風しん」～



今、風しんが30～50歳代の男性を中心に流行しています。風しんが職場などで流行し、そこから家庭に感染が広がる危険性が問題視されています。風しんは妊婦さんが感染すると、おなかの赤ちゃんに一生残る重い障がい、高い確率で生じるおそれがあります。なんと感染力はインフルエンザの5倍。風しんに『かからない・うつさない』ために、あなたにできることを考えてみましょう。

健保だより

令和元年 6 月 13 日号

※ダイワボウ労働組合「組合新聞」第 1034 号
(令和元年 6 月 10 日発行)に掲載の
「健保とあなた」と同じ内容です

風しんかも?と思ったら、出社は



顔から全身にひろがる小さな発しんや発熱、首の後ろ側のリンパ節が腫れたときは、出歩かず電話でかかりつけ医等に風しんの可能性を伝え、どうすべきか相談して下さい。医師の許可が出るまでは、絶対に職場などへの外出はひかえてください。

安心
安全

風しんのワクチン接種があいまいな人は
予防接種を受けてください。

30～50歳代の男性で、とくにパートナーが妊娠していたり、妊娠する可能性がある場合は予防接種を受けてください。その年代以外でも、過去にワクチンを接種したか不明な場合は、ぜひ予防接種をご検討ください。追加接種による副反応はありません。過去に風しんにかかったり、ワクチンを受けていたとしても風しんへの抵抗力がより強くなるだけです。

大人が風しんにかかると?

発熱や発疹の期間が子供に比べて長く、関節痛がひどいことがよくみられます。一週間以上仕事を休まなければならない場合も。また、脳炎、血小板減少性紫斑病、溶血性貧血などの軽視できない合併症をひきおこすことがあります。



市区町村での取り組み

風しんの流行防止のために、以下に該当する男性は風しんの抗体検査＋予防接種が原則 **無料** で受けられます。

定期予防接種の対象者

1962(昭和37)年4月2日～1979(昭和54)年4月1日生まれの男性

2019年4月以降、市区町村から順次無料クーポン券が届く

抗体検査(血液検査)

抗体あり

抗体なし

予防接種をうけましょう



※「抗体検査」及び「予防接種」についての詳細は、お住まいの市区町村へお問い合わせください。